

あなたの足元お借りします

作 山崎哲史

登場人物（登場順）

女性

ソフィ 二十代後半。伯母のアンよりアバートを相続した

ミリアム 二十代後半。新米弁護士。ソフィの友人。

シビル 三十代半ば。自称彫刻家、周囲の認識は占い師

エステル 二十代前半。考古学を学んでいる大学生

ドニ 三十代前半。自称写真家

男性

ルカ 五十代半ば。自称画家

デビッド 三十代前半。自称詩人、いかにもな中世の服装

セシル 三十代半ば。自称作曲家

カール 三十代前半。教会の神父

マシュー 二十代後半。ソフィの恋人、陸軍訓練生の教官

ジョニー 二十代前半。脱走訓練兵

場所

ソフィがアンから相続したアバートの地下。

かつてローマ人が石を掘り出してできたトンネルを利用したもの。

上手に地上からの出入口。すぐ外に階段があり、隠し扉から外につながる。舞台正面に部屋への出入口が二つ。上手がデビッドの部屋。下手がルカの部屋。それぞれ人が通れる穴があるだけで扉は無い。

下手は廊下に続き、その奥で隣の教会の地下につながっている。

上手奥に彫刻が一体置かれ、中央奥に額（絵画）が一つ掛かっている。

フランス、ニースに近いとある町のとあるアバルトマンの地下。
鉄扉の開く音。

ミリアムの声 何ごと。地下室？ 嘘、何なのよ！

ソフィの声 よしましよ、ミリアム。

ミリアムの声 何言ってるの。あんたのアバルトマンでしょ。

階段を下りる足音。

ソフィとミリアム、上手より登場。

1

ソフィ 何なの？

ミリアム 明かりが点いている。電気は来ているのか。てことはこの地下室は生きているわけね。まだ向こうにも続いている。どこかにつながってたりするのかしら？

ソフィ 隠し扉、階段、地下室って……ね、遺言状に書いてあったっけ？

ミリアム なかった……はずよ。

ソフィ 戻りましようよ。私もう嫌。

ミリアム 嫌だったって相続しちゃったんだから。

ソフィ 私が相続したのは上のビルだけよ。

ミリアム 「土地を所有する者は、天頂に至り地底に達するまで所有者なり」。ラテン語の格言。法的に所有権は認められるの。ま、念の為あとで不動産屋に確認しましょ。社長も一時間くらいでオフィスに戻るって話だし。

ソフィ 伯母さんが遺したアパートが問題物件だなんて……

ミリアム まだ問題と決まったわけじゃないでしょ。

ソフィ ……相続なんかするんじゃなかった……

ミリアム 罰当たりねえ。これだけの財産が転がりこんだってのに。私だったら喜びで発狂するか、ドローンより高くパリの空へ飛び上がってみせるわよ。

ソフィ ……死にたい……

ミリアム ちょっと！ いきなりバカなこと言わないで！

ソフィ だって……

ミリアム ……確かに、あんたの人生ってホントに波瀾万丈だね。芸術家きどりのお父さんが失踪した上に事故死。続いてお母さんが亡くなって、修道院に引き取られてった時はあんたの人生シスターで終わったと思っただわ。

ソフィ そうよ、シスター。私やっぱりシスターになる。

ミリアム やめなさい。何の為にアン伯母さんが修道院から救い出してくれたの。

2

ソフィ ……私は修道院がよかったのよ。なのに、どうして。

ミリアム あなたの人生をただ神に祈るだけの人生にしたくなかったからじゃないの。この世には一杯楽しいことがあるってことをあなたに教えたかったからよ。特に芸術に対する造詣はなかなかのものだったものね。

ソフィ 芸術なんて……そんな物に取り付かれたおかげで、パパはあんなに早く死んじやったわ。なのにアン伯母さんったら、口を開けば芸術芸術……でも、死んじやった……可哀想な伯母さん。マドレーヌを喉のつめらせて死んじやうなんて。ホント。人間なんてあつけないもんだわ。

ソフィ パパもママも、アン伯母さんまで……私にはもう誰もいない……

ミリアム 誰もいないって、マシューがいるでしょ。愛しい愛しい彼が。

ソフィ ……

ミリアム 何黙ってんの？ まさか別れたって訳じゃなし。

ソフィ ……

ミリアム 別れたの！

ソフィ 分からない。連絡がつかないの。もう三日も。

ミリアム 何だ。忙しいんじゃないの。

ソフィ もう私には誰もいない。(泣く)

ミリアム 何でそう簡単に答えを出すのよ。

ソフィ あなたは彼をよく知らないから。

ミリアム 確かに、私はマシューって奴に会ったことないからがどんな奴がよく知らないけどさ。案外どこかで女口説いてたりしてね。

ソフィ ほら。やっぱり私はもう天涯孤獨なんだわ。(泣く)

ミリアム 嘘よ……ね、ソフィ。いい加減にしなさいよ。少なくとも私がいるじゃないの。幼なじみであなたの優秀な顧問弁護士が。全くどうしてそうネガティブなのかしら。

ソフィ あなたがポジティブすぎるのよ。弁護士の資格があったって、無職じゃないの。投資会社クビになっただけよ。

ミリアム より好条件な職場を求めて転職中って言ってもらえないかしら。今も履歴書送って返事待ちなんだから。

ソフィ 彼氏もいないし。

ミリアム 募集中なだけよ。

ソフィ お金もないし。

ミリアム 今にたっぷり稼ぐわよ。

ソフィ 可哀想なミリアム。よく生きていられるわね！(泣く)

ミリアム 殴ってやるうか。ね、頭を切り替えないさいよ。ここは二ースの郊外。分かってる？ 郊外でも二ースよ二ース。しかも季節は夏。バカンスに来たと思いなさいよ。

ソフィ パリから六時間もかけて、見知らぬ土地に来させられて……

ミリアム 泳ぎましょうよ。太陽の下で。新しい彼氏が見つかるかもよ。

ソフィ マシューにとって私はつまらない女だったんだわ。(泣く)

ミリアム ……ね。私にはあなたの顧問弁護士としての責務があるの。とにかく立ち上がって頂戴。

ソフィ 帰ろう。私、ここいらない。

ミリアム いらないうって、

ソフィ 人間はいつでも死と隣り合わせ……死んでいく女にビルは必要ないわ……

ミリアム あんたはここを相続した。今更放棄するってんなら、契約不履行で訴えてやる。

ソフィ え？

ミリアム そうして裁判起こして、法廷へ引っ張り出してやる。傍聴人の好奇の目に曝して、新聞記事にしてネットで炎上させてやる。

ソフィ やめてよー

ミリアム それが嫌なら自分の責務を果たしなさい！

ソフィ ……

ミリアム それにしてもどこまで続いているのこの地下室？(彫刻を見て)へえ……(絵も見る)いい絵ね……

ソフィ そんなの見つめてないで、戻りましょうよ。

ミリアム 見てご覧なさいな。いい絵よ。

ソフィ そんなの見たくもないわ。ね、戻りましょうよ。

ミリアム 芸術嫌いのお姫様。確認しておかきやならないでしょ。それにしても本当に広いてわね。ひょっとして墓地の跡だったりしてね。そこかしこに幽霊が跋扈してるかもよ。

ソフィ やめてよー

扉の閉閉音。

ミリアム 何！

ソフィ 何の音？

二人、おびえて寄り添う。

頭から大きな白い布をかぶったシビル、下手より登場。

ソフィ (シビルを見て)ー ミリアム。

ミリアム 何。

ソフィ 後ろ。

ミリアム 後ろ？ 何よ後ろって。！ どなた？

シビル (ミリアムの顔を覗き込む)……

ミリアム 何？

シビル 金運仕事運恋愛運悪し。特に言うことなし。

ミリアム え。

シビル (ソフィの顔を覗き込み)金運良し、仕事運恋愛運悪し。でも安心なさい。運

勢は上向きにあります。ラッキーアイテムは豪華なベッド。失礼。

ソフィ ?……

シビル、上手へ去る。扉の閉閉音。

ミリアム 何今のー

ソフィ 人間よね、お化けじゃなかったわよね。

作業着姿のエステル、買い物袋を抱えて上手より登場。

エステル マドレーヌ、マドレーヌ。疲れた時は甘い物……あ、失礼します。

ソフィ 違うのが出た！

ミリアム 誰なの！

エステル、そのまま下手へ去る。

ソフィ 何今の子。

ミリアム なんかフツーに通ったわね。よりによってマドレーヌってマドレーヌって。

ソフィ ここ、変な人の溜まり場なのかしら。やっぱり嫌よ私……

その時、フラッシュが光る。

ソフィ・ミリアム (驚いて叫ぶ)

ドニ 下手より登場。

ミリアム 何なのよ！

ドニ 新顔ね。いい表情。じゃ。

ドニ、ルカの部屋に入っていく。

ソフィ 何なの？

ミリアム 何人出てくるの？

ソフィ ここ普通に人が住んでんじゃないでしょうね。

ミリアム ま、それならそれでいいじゃない。上の階だけじゃなく地下室まで賃貸にすれば、家賃収入増やせるかもね。

ソフィ 正気で言ってるの？

ルカの声 またやったのか。

ソフィ・ミリアム え。

ルカの部屋よりドニ、出てくる。その後ろからルカ登場。

ドニ いつまで寝てるの。

ルカ (欠伸して) 朝まで飲んじゃってね。君に万一の目覚しを頼んでおいてよかった。

ドニ 私だって忙しいんですからね。

ルカ 分かった分かった。それよりまた壁を崩したのか。

ドニ あの子も勉強が足りないのよ。それじゃ、約束は果たしたわよ。

ルカ 折角来たんだから少しは落ちついたら。

ドニ 研究と個展の準備。そんな暇はないの。

ルカ (ソフィとミリアムを見て) おや？ ボンジュール。

ソフィ・ミリアム (小声で) ボ、ボンジュール。

ドニ じゃ。(ソフィとミリアムに) 新顔！

ソフィ・ミリアム え？

ドニ、写真を撮り、上手へ去る。扉の開閉音。

ルカ 忙しいなあ。さてお嬢さん方。お会いするのは初めてだね。私は画家のルカ。

ルカ、ソフィに握手を求める。

ミリアム (その手を取って) ミ、ミリアムです。

ソフィ (警戒しながら) ソフィです。

ルカ はて……そんな名前の聖人いたっけな。

ミリアム あなたはどなたですか。

ルカ ルカだよ。画家のルカ。

ミリアム そうじゃなくて、どこの誰かと、

ルカ そんな野暮なことは聞いてはいけない。ここは誓約に護られた楽園なのだから。

ソフィ・ミリアム 楽園？

ルカ ここにいるからにはそれくらい知っているでしょ。うお嬢さん。で、君達はどの

聖人から名前を取ったのかね。

ソフィ・ミリアム 聖人？

ルカ ジャンヌとダルクだったりして。

ミリアム 何をおっしゃってるんですか？

ルカ え……おかしいな。おいデビッド。デビッド！

デビッド、部屋より登場。十八世紀を思わせる服装。羽根ペンを持つ。

ソフィ・ミリアム !

デビッド どうかしましたか、心の友ルカよ。

ルカ こちらのお嬢さん達だが。

デビッド これはこれは。芸術の楽園に女神が舞い降りたのですね。私はデビッド。どう
かご拝謁の栄誉を賜らせたまえ。

デビッド、もったいぶったお辞儀。

ソフィ・ミリアム ……

デビッド どうしました。

ルカ 驚いてるんだよ。

デビッド 何に？

ルカ デビッドの事を知らないという事は、こちらのお嬢さん達は我々の仲間ではな
いという事だな。

デビッド 何だって！ この楽園に又も侵入者！ 何ということだ。

ミリアム あの、

デビッド はい。

ミリアム いえ、そちらの。

デビッド 私じゃダメですか。

ミリアム ちょっと常識的に。

デビッド ダメですか？(ソフィに)私じゃダメですか！

ソフィ 生理的に。

デビッド そんな言い方ないと思う。(壁際にしゃがみ込み落ち込む)

ミリアム 答えてください。あなた方は一体。

ルカ 仕方ない。アンに連絡するか。

ミリアム アンって、アン・マティス？

ルカ なんだ。アンの知り合いかい。じゃあ本当はこのことを知ってるんだろ？

ソフィ 伯母をご存知なんですか。

ルカ 伯母？ 君はいいたい。

ソフィ 姪です。姪のソフィ・マティスです。

デビッド アンの姪っ子さん？

ルカ ソフィー 君がああソフィだったのかー(ソフィの手を握る) 話には聞いていたがまさか君がそうだとは。大きくなったねえ。私が見せてもらったのはまだこんなに小さい頃の写真だけなんだよ。ようこそ楽園へー アンは元気かね、

最近顔を見ないが。

ソフィ 伯母は、アン・マティスは死にました。

ルカ 何だって？

デビッド いつ！

ソフィ 先週。

デビッド どうして！

ソフィ お笑い番組を見ている最中にマドレーヌを喉だしせさせて。

ルカ・デビッド 本当に。

ミリアム 本当です。葬儀もつい先日。

ルカ なんて事だ。いかなる時も我がが芸術の母であったアンよ。

デビッド 機関銃よりも早くしゃべり全てを支配したアンよ。

ソフィ あの、ふざけてごっしやるんですか。

ルカ・デビッド 悲しんでるよ。

ルカ アンの魂が安らかでありますように。

デビッド 安らかに眠りをませえ。

ルカ ではアンが亡くなったことを知らせに来てくださったんですね。

ミリアム アンの唯一の血縁者であるこのソフィが、伯母の遺言でこのアパートを相続し

ルカ 開いた？

ミリアム だからここに下りてきたんですわ。ここはいい何なんですか。遺言書にも
間取り図にも地下のことなんて、

デビッド ここは我ら芸術家の魂を護りし賜う楽園！

ミリアム このキモい人は何なんです。

デビッド それは言わない約束だろ。(壁際にしゃがみ込み落ち込む)

ミリアム そんな約束してませんけど。

ルカ 閉めなかったのだ誰だ。隠し扉の意味が、あ、まさか。ちょっと失礼。

ミリアム あの、

ルカ、下手へ去る。

ミリアム (ルカに) まだ何も教えてもらってませんけど！(デビッドを見て) 聞く？

ソフィ あの人が戻るのを待ちましょ。

デビッド 待てえいー 聞いてー なんでも聞いてー 私に聞いてー

ソフィ ええ……ミリアム。

ミリアム 私？……ソフィ・マティスの顧問弁護士でミリアム・ラマーと申します。

デビッド 顧問弁護士？

ミリアム デビッドさんとおっしゃいましたね。ここでいったい何をなさっているのです
よ。うか。簡潔明瞭にお答えください。

デビッド よくぞ聞いてくれました！ 私は芸術のしもべの一人、大いなる魂の感動を呼
び覚ますべく言葉を紡ぎ愛を奏でる詩人なのです！

ミリアム 普通に喋ってよ。

デビッド そろそろ馴れてもらえませんか。

ミリアム 常識的に無理です。

ソフィ 生理的に無理です。

デビッド それは言わない約束だろ。

ミリアム だからそんな約束してませんし、普通にしてもらえませんか。

デビッド これが私の普通です。

ミリアム その調子で現代社会でやっていけるはずないでしょ。

デビッド 神聖なる楽園の誓いを立てているんです。ここでは解放し正直に、

ミリアム 救急車呼ばう。

ソフィ 警察の方が。

デビッド (普通に) 本当になにも知らないんですね、アンの創った楽園の事を。

ミリアム 出来るじゃないか。

デビッド 出来ますよ。つまりですね、ここは地下を網の目状に広がるトンネルを区切ったものです。上の敷地と同じだけの広さがあります。

ソフィ トンネル？

デビッド かつてローマ人が街を造る為の石を掘り出した時のものだろうという話です。

ミリアム 聞いたことがある。パリの地下にもトンネルがあって、昔それを勝手に利用した人達が博物館の地下を映画館にしたり、芸術家達がアンダーグラウンドな展示会を開いたとか。

ソフィ そんなことが？ じゃ皆さんは勝手にここを？

デビッド アンはここを使って俗世間と心の世界の狭間で苦しむ芸術家達の庇護をせよと天啓を受けたそうです。何と素晴らしい！彼女こそは芸術の守護神、我らが女神！その志にひかれるようにして私達は集まったのですよ。

ソフィ やっぱり伯母さんだわ。父と同じ忌まわしい芸術の血が流れてるのよ。

デビッド 僕の話聞いてます？

ミリアム 聞いているから嘆いてるんでしょ。

デビッド 芸術家、お嫌いですか。

ソフィ (露骨に嫌な顔をして) 芸術家。

デビッド 分かりやすい顔。

ソフィ 私は芸術家を嫌悪します。

デビッド どうしてですか？

ミリアム 芸術じゃ食べていけないでしょ。

デビッド フランスに生まれながらなんと悲しいことを。

ソフィ つまりここは芸術家の溜まり場ってことなんですね。

デビッド 何て素晴らしい。

ミリアム それも売れない芸術家の。

デビッド それこそ言わない約束だろ。(しゃがみ込む)。

ソフィ 芸術家の溜まり場ってことは他にもいるってことよね。

ミリアム (デビッドを小突いて) 言いなさいよ。

デビッド ……私と画家のルカ、作曲家のセシル、写真家のドニ、古い師のシビル、

ソフィ 思ったより生息してる。

ミリアム さっき写真を撮ってたのは写真家か。

デビッド え、撮られたんですか？ 私は一度も撮ってもらえないんですがね、ハハハハ。

ソフィ 最初の幽霊みたいな人は古い師……

デビッド 彼女、彫刻家ですが古い腕が凄いですよ。特に恋占いが。私は一度も占ってもらえないんですがね、ハハハハ。

ルカ、泣いているエステルを連れて下手より出てくる。

ルカ 犯人はエステルらしい。泣いてたから話を聞くのに一苦勞だったよ。

ミリアム その子はどんな芸術家？

デビッド いや、エステルは隣の教会に寄宿している大学生です。奥で壁の修復を、って何があったんだい。

エステル また壊れてた……また壊れてた！

デビッド それは可哀想に。

エステル ……戻ります。

エステル、下手へ去る。

ミリアム 話が見えない。この壁そんなに壊れやすいの？ 大学生がバイトで修復してるの？

デビッド あの子が執念で壁をプチ破ったんですよ。

ルカ 大学で考古学を専攻しててね。地下トンネルを発掘して自分の名で発表しようとして夢みてるらしいんだよ。それで隣の教会の地下室から壁を大槌でぶち破った。

ソフィ そんな非常識な。ここは私のビルですよ！

ミリアム お。エンジンが入ってきたな。

ルカ 神父に怒られて一人で修復させられてるんだ。逃げようにも神父が大学の助教と友人で逃げられない。まあ自業自得かな。

ミリアム 私も実家の壁を直したことあるけど、修復くらいすぐ終わるでしょ。

ルカ それがそうはいかない。古い建造物にうるさい人間がいてね、エステルの作業を確認しては、キッチンと時代を合わせた修復をしていない部分をこっそり壊すんだ。

ソフィ・ミリアム ひどい。

デビッド 一カ所が壊されると他の部分も壊れるんですよ。ちゃんと修復すればいいだけの話ですけどね。何が問題なのか分かっていないものだから、あの子の作業は進まないんです。直しては壊され直しては壊され。

ソフィ・ミリアム 可哀想に……

ルカ それも人生だ。さて、開けっ放しにした犯人は分かった。一応みんなにも注意

してあげよう。

ソフィ あ、この事やあなた方について、キッチンと説明してくださいませんか。

ルカ デビッド、ご説明しあげなかったのかい。

デビッド しましたよ。ここが楽園で私達は芸術家だと。

ミリアム そうじゃない。あなた達がどこのどなたで、どういう条件でここを使っているのかという事です。ソフィが上のアパートを相続した以上、地下も法的に彼女の物です。怪しげでいかがわしい人達を置いておくわけにはいきません。

デビッド 顧問弁護士だそうですよ。

ルカ 成程、それで。お嬢さんの言い分はごもっともですな。我々としても、

ソフィ 芸術家は退去！ 私の周りに芸術家は不要です！

デビッド こちらのお嬢さんは芸術家がお嫌いなようです。

ミリアム ええ。芸術家取りの父親と、この子にとって居心地のいい修道院から、藝術を知れと連れ出した伯母さんのせいで。

ルカ 悲しいことですな。

ミリアム こちらの意向はお分かりいただけましたね。

ソフィ 直ぐに出ていってください！

デビッド そんな横暴な！

ルカ お嬢さん、少し気が早すぎるのではありませんかな。マンから何か、

ミリアム 故アン・マティス氏の遺言状には、ここについて何の記載もありませんでした。ということは慣例に従いまして新たなオーナーであるソフィの意向が尊重されます。これは、法に則った発言です。

ソフィ ですので出てってください。

デビッド

ルカ ルカ……
顧問弁護士さん。あなたはまだお若く場数も踏んでいらっしやらない。そんなに強引ではトラブルを引き起こしますぞ。

ミリアム 私は雇い主の意向を優先しているだけです。それがプロ、というものです。

ルカ 軽々しくプロなどと口にしないう方がよろしい。これは、人生の先輩としてのアドバイスですよ。

ミリアム どうぞお好きに。世間でやっていけない芸術家ごどりの方になんと言われようと痛くも痒くもございません。

ルカ 成程。話し合いのテーブルにつかせていただけないというわけですか。

ミリアム 法的に必要がありませんので。

ソフィ 早く出てってください。

ルカ しかし、追悼のテーブルにはご同席いただけますかな。

ソフィ・ミリアム 追悼？

ルカ 我等のアンのために。ソフィさんを主賓に追悼の晩餐を開きたいと思う。ご出席いただけませんか。

ミリアム あなた達みたいな胡散臭い人達とソフィを同席には出来せんわ。

ルカ アンを神の御手に無事送り届けるのも、神のしもべたる我々の義務だと思うのですが。

ミリアム 無理ですね。ソフィは出席しません。

ソフィ 出てもいいかな……

ミリアム え。

ソフィ アン伯母さんの死を悼んでくださってるようだし、晩餐くらいおつきあひしましょうよ。

ミリアム しまった。シスターになりたい女だった。

ソフィ ちょうど追悼ミサの七日目だし。これも主のお導き。(祈る)

ルカ 隣の教会でミサを頼むといい。

ソフィ そうでした。お隣教会でしたね。

デビッド あの破戒僧はやめといた方がいいんじゃないじゃありませんか。

ソフィ 破戒僧？

ルカ

神父であることに違いはない。彼はこのことも知っている。教会でミサをあげてもらって、それからここで晩餐でどうかな。葬式に出られなかった分、マンの話をしたい。

扉の關閉音。

ソフィ ありがとうございます。

ルカ ソフィさん達が教会に行っている間に私達は晩餐の支度をしよう。

ソフィ ミサに出席してくださらないんですか。

ルカ 出たいのはやまやまですが、喪服もないし晩餐の準備もしなければならぬ。

ミリアム いっそのことマドレーヌを山ほど用意しようか。アンの仇討ちだ。私、パス。甘い物苦手だから。晩餐も遠慮させてもらおうわ。

デビッド とっておきのお酒も出しますか。

ミリアム 銘柄は？

セシルの声 これは如何ですか？

セシル、買ひ物袋を抱えて上手より登場。

セシル 只今戻りました。(ミリアムに袋の中身を見せて) 如何です?
ミリアム あら、タイプって、どちら様?

ルカ さっき申しました芸術家の一人、作曲家のセシルです。(覗き込み) ああいいね。セシル、君飲まないのによく選べたね。

セシル シビルがね、「いいお酒を用意しなさい。運命が動き出すでしょう」って。
ミリアム さっきの占い師?

デビッド え、君も占ってもらったの?

ルカ 私なんか毎日だ。

ソフィ それで、私達まで勝手に占われたんですね。

デビッド え、二人とも占われたんですか? 会ったばかりなのに? シビルは何で僕だけ占われないだろう。

一同 ……

デビッド 何で黙るの?

セシル (小声で) そろそろ分かれよ。

デビッド え、何?

セシル でこちらは?

デビッド 話進むの?

ルカ アンの姪御さんのソフィさんとお友達のミリアムさんだ。

ソフィ・ミリアム はじめまして。

セシル はじめまして。お酒の話が聞こえたんですが、今夜もパーティですか。

ルカ 追悼の晩餐さ。アンが先週亡くなったそうさ。マドレーヌを喉に詰まらせて。

セシル マドレーヌを? ……アンらしい。

セシル、手を組んで折る。

セシル いかなる時もお菓子を手放さなかったアン、若い男の子の手を放さなかったアン。安らかに眠りたまえ。

ルカ まゝそんなわけで今夜は追悼の晩餐だ。ソフィさんはこれから隣でミサを、

セシル カールに? あの破戒僧だけはやめた方がいいのでは。

ソフィ あの、お隣の神父さんってそんなに問題あるんですか。

デビッド・セシル あります。

ルカ だが神父であることに間違いはない。

ミリアム ソフィ、やめといった方がいいんじゃない。

ルカ (ボトルを見せる)

ミリアム でもないわね。そうだ、ついでに不動産屋にも行こう。ね、それがいい。
ソフィ あ、ええ。それじゃ、失礼します。
ミリアム 失礼します。オホオホホ。

ソフィとミリアム、上手へ去る。
ルカとデビッド、手を振って見送る。

セシル これお願い。

セシル、袋をデビッドに渡し、上手へ去る。

ルカ どうしたんだろう。

デビッド さあ。(袋の中を見て)うん、いい酒だ。店長のオススメかな。

扉の開閉音。

ルカ ああ。隠し扉の確認か。

デビッド ちゃんと見に行くべきでしたね。さて、どうするんです。

ルカ 何が。

デビッド 本当にアンの追悼だけが狙いですか。

ルカ それなんですが、

セシル、戻って来る。

セシル 見送ってきました。しかしまさかアンが死ぬだなんて。

ルカ それで大問題が起ったんだ。どうやらあのお嬢さん、芸術家が大嫌いで私達を
追い出すつもりなんだよ。

セシル それは一大事だ。カールに食べてもらったほうがいいんじゃないですか。
デビッド キツイことを言うなあ。でも同感だ。

カール、下手より登場。

カール お呼びですか。
デビッド・セシル 出た！

カール 神に使える私をお化けのように。天罰が落ちますよ。

デビッド 天罰が落ちるのはどっちだよ。素行を恥じる。

ルカ エステルが可哀想だと思わないのかい。直しても直しても直らないなんて。

カール レンガを蹴り崩すのはドニに頼まれてのことですよ。ああ、昔からの友人に頼

まれたとはいえ辛いことです。(十字を切る)

デビッド 楽しんでやってみように見えるけどな。

カール 主よ、楽しみを覚え始めた私を許したまえ。(十字を切る)そしてこのデビッ

ドが清らかな身でいるために伴侶が現れないようお見守りください。

デビッド そんなこと祈らないで。

カール 全ては神の思し召しです。

ルカ 神の思し召しと言えば、アンが亡くなったそうさ。

カール アンが……あのアンがですか！

ルカ 先週、マドレーヌを喉に詰まらせたそうさ。

カール そうですか。追悼のミサをひらかねばなりませんね。

ルカ それだよ。アンの姪御さんがやって来てね、若い顧問弁護士のお嬢さんと。

カール 若い娘が二人も！

デビッド・セシル (咳払いして睨む)

カール いや、それで？

ルカ 君にミサを頼みに行ったはずだが会わなかったようだな。入れ違いか。早く戻

ってやってくれないか。我々はミサの後、ここで晚餐を開く準備をしなければ

ならないんで、よろしく頼む。

カール 分かりました。私好みの娘さんだと良いのですが。

カール、下手へ去る。

セシル 二人とも餌食にする気？

デビッド 天罰はいつ下るんだろう？

ルカ とにかく準備だ。

デビッド ねえルカ。なにか考えてるんですよね。まさかおとなしく出て行くというんじ

ゃないでしようね。イヤですよ私は。人生のオアシスを手放す気はありません

からね。ここが無くなったら私は、

セシル 私も同じくです。そんな馬鹿な話があったたまるものですか。

ルカ 分かっている。私だってまっぴらごめん。家賃を払えというなら払うし身元

が怪しいというのなら明かす。だが我々の、この場所の、アンの想いを、理解

できないというのは耐えられない。だいたいアンの姪でありながら芸術が分からないとは何事だ。

デビッド　で、作戦は？

ルカ　そもそも所有権が彼女になければいいだけの話だ。まずそこを押さえよう。

セシル　どういうことですか？

ルカ　適当な奴をアンの隠し子に仕立て上げる。その「アンの息子」に楽園の所有権を主張させ、ここを諦めさせるんだ。セシルが戻ってくるのがもうちょっと遅かったらな。セシルにやってもらったんだが。

デビッド　なるほど。ここを彼女達から解放するわけですね！

セシル　「アンの息子」……証拠を出せと言われたら、

ルカ　そんなものいくらでも用意してやる。

セシル　分かっていますか。犯罪になりますよ。

ルカ　法律的に勝てば問題はない。

デビッド　かなり頭にきてますね。もっとも私もですが。

セシル　でももし法廷に持ち込まれてDNAなんてやられたら結局……

ルカ　いいかい。今大事なのは、少しでも時間を稼ぐことが出来れば、更に妙案が生まれるかも知れないし、彼女達の芸術に対する考えを改めさせることも出来る

かもしれないだろう。まあ私に任せておけ。万が一の場合、私が全ての責任を取る。とにかく時間が無い。今は手を貸してくれ。それともここを追い出される方がいいかい？

デビッド・セシル　嫌です！

ルカ　よし。お嬢さん達が戻ってくる前に「アンの息子」を用意するんだ。ノリが良くて芝居、気のある奴がいいな。ただ面が割れてる奴はダメだ。イケメンがいなあ。知り合いでいいからいい男を、

デビッド　いい男なら、ほら、ここに。(襟を正す)

ルカ・セシル　……

デビッド　今の間は何。ね、何。

ルカ　(セシルに) 本当は君なんか適任なんだがもう面が割れちゃったからなあ。

デビッド　どうせ私なんか……(しゃがみこむ)

ルカ　よし。方法は問わないから大急ぎで人を手配してくれ。デビッドは私と晚餐の準備だ。ああ、セシル。帰りにマドレーヌを買ってきてくれ。山ほどな。

セシル　了解。では。

セシル、上手へ去る。扉の開閉音。

ルカ おい、デビッド。テーブルを用意してくれ。デビッド？
デビッド いいんだ。どうせ私なんて。

ルカ ほら立てデビッド。機嫌を直せよ。時折気弱になるな君は。

デビッド ここにいる時くらい気弱にさせてください。

ルカ まゝその方がお似合いだがね。君の真実の姿を知ったら誰もが驚く。だが今はしっかりしてくれ。君が頼りなんだ。

デビッド 本当？

ルカ 本当だとも。この楽園でウソなんてつくものか。

デビッド 仕方ありませんね。やるとしますか。

ルカ うん、頼んだ。ああ、マドレーヌの買い置きあったら。それも出してくれ。

デビッド 喜んで。

デビッド、ルカに袋を渡すと自分の部屋へ去る。

ルカ、苦笑しつつ自分の部屋へ去ろうとすると、カール、下手より入ってくる。

カール ルカ。

ルカ おや、神父。アンの姪御さんは？

カール それがまだ。というのは人捜しをしている方にお会いしまして、お話を聞いていたものですから。お連れしました。マシューさん。

マシュー、下手より登場。直立姿勢をとってから慌てて碎けた様子に。

マシュー マシュー・ニコーと申します。こちらに男が一人、来ていませんか。

ルカ 男が一人？

カール ジョニー・フランシユという、脱走兵だそうです。

ルカ 脱走兵？

マシュー 陸軍の訓練所から軟弱者が一名逃げ出しまして。訓練兵とはいえ脱走は罪に問われます。このままだとそいつに前科がついちゃうわけでして。もしご存じなり、あるいは何らかの事情で匿っていらっしゃるのでしたら、速やかに引き渡してもらえませんでしょうか。

ルカ 見てませんが。でもどうしてそんな奴がここに？

マシュー 調べましたところ、ニースに向かった節がありました。ニースの大学に幼なじみの学生がいるそうです。で大学へ行く隣の教会に行っただと言われました。

カール その迷える青年に前科がつかない為にも穩便にすませるには今連れ戻すのが一番なんだそうです。

ルカ 残念ながらここには。

マシュー 失礼。

マシュー、デビッドの部屋に入っていく。

ルカ おい勝手に、

マシュー、すぐに出てくるとルカの部屋に入っていく。

デビッドの声 なんだお前は！

マシューの声 失礼。私は、うわっ！

ルカ あ、しまった。デビッド、その人はカール神父が、

お腹をおさえたマシュー、デビッドに捕まえられて出てくる。

デビッド おい、貴様はなんだ。

カール 申し訳ありません。こちらの方が人を捜しているもので、

デビッド だからといって無断に入ってくる奴があるか。ここに怪しい奴などいない。

マシュー あなたが一番怪しい……

デビッド さ、出ていけ。

マシュー 聞いてください。人を捜してるんです。脱走兵です。早く連れ戻さないと。痛

たたた……効いた。

デビッド 咄嗟だったからな、加減をしてやれなかった。

マシュー 見かけと違うんですね。

ルカ そうなんだよ。デビッドは見かけと違うんだ。

デビッド 貴様の先輩だからな。もし怪しい奴が来たら神父に伝えてやるよ。

カール 上のアパートも捜してみましよう。案内いたしますよ。こちらへ。

カール、下手へ去る。マシュー、一礼してから続いて去る。

デビッド 逃げられるのは教官でも問題があるんだよ。

ルカ ホントに見かけによらないな。準備の続きだ。

デビッド そうでした。

二人、それぞれ去る。

入れ替わりに下手からエステルと軍服姿のジョニー登場。

エステル 静かに歩いて。

ジョニー 無茶言うなよ。へトへトなんだからさ。

デビッドの鼻歌が聞こえてくる。

エステル やばい。戻れ。

ジョニー ええ？

エステル、ジョニーを下手へ押し込み、引込む。

デビッド、手頃なテーブルを抱えて出てくる。中央に置いた後、気取って二、三度、位置を調整し、テーブルクロスをかけて去る。

エステル 何やってんだろ、あの人は。

ジョニー え、何、何、これから飯？ 俺、おなか空いたよ……

エステル いいからさっさと消えろって。ここより教会の方が人目に付かないから。

ジョニー そうだけどさ、何か食べないともう歩けないよ。

デビッドの鼻歌、聞こえる。

エステル、慌ててジョニーを下手へ押し込み、引込む。

デビッド、椅子を二脚持ってきて出てきて配置し、戻っていく。

エステルとジョニー出てくる。

ジョニー 何か分けてもらえないかな。

エステル ふぎけんなよお前。早く消えろって。

デビッドの鼻歌、聞こえる。

エステル、慌ててジョニーを下手へ押し込み、引込む。

デビッド、マドレーヌを持ってきて置き、去る。

ジョニー、出て来て、マドレーヌがつつく。エステル、出て、

エステル 何やってんだよ。

ジョニー、マドレーヌの残りをみんな持って、エステルと消える。
デビッド、イチゴのショートケーキとマカロンを持って出る。

デビッド (マドレーヌがないのを見て) ?……

又戻る。

ジョニー、出て来て、ショートケーキを頬張る。エステル、出て、

エステル やめろってー(鼻歌が聞こえ)やばい。

又消える。

デビッド、グラスを持って出る。

デビッド (ショートケーキがないのを見て) !……? ?

大きな靴音を立て去るふりをして隠れる。

ジョニー、出る。口の横にクリームがついている。エステルが止める。

エステル (引っ張り) いい加減にしる。見つかったらどうすんだよ。早く行けよ。

ジョニー まだマカロンがある。

デビッド、出る。

デビッド 何だ貴様ら!

ジョニー・エステル !

エステル デビッドさん……面倒臭い人に会っちゃったな……あの、デビッドさん、

デビッド 貴様が。ここにあったマドレーヌやイチゴのケーキを食ったのは。

ジョニー (首を振る)

デビッド 口の横にクリームがついてるぞ。

ジョニー !……(人差し指でゆっくり取り、指を嘗めて、首を振る)

デビッド もう遅い!

エステル デビッドさん、こいつは幼なじみで、これには訳が、

ジョニー ハハァン、気をつけ！

ジョニー (直立不動の姿勢になる)

デビッド やっばり。休めー

ジョニー (足を軽く開いて両手を腰の後ろにまわす)

デビッド 食ってよしー

デビッド、マカロンを口で、

デビッド バカものー

デビッド、口からマカロンを飛ばす。

デビッド 脱走訓練兵か。陸軍だな。待ってる。今軍法会議にかけてやるからな。

ジョニー わぁああああー！

と襲いかかるも、逆に苦めなくねじ伏せられる。

ジョニー 痛いー

エステル デビッドさん、見かけと違う。

ルカ、ワイングラスを抱えて出てくる。

ルカ なんだ、どうした。

エステル ルカさん。デビッドさんが強い。

ルカ 人は見かけによらないだろう。君も覚えておいた方がいいぞ。おや、誰だ？

デビッド 我がフランスの面汚しですよ。

ルカ 現れたのか脱走兵が。

デビッド 座れー

エステル すみません。座らせませす。座れ、このバカ。

ジョニー、座る。

ルカ 彼氏かい？

エステル 違います。幼馴染みなんです。就職難の今、三年したら警備会社へ就職可能。

て宣伝文句につられて陸軍に入ったんですけど、とんだ根性なしで。昨日、電話がかかってきて、それで。

デビッド 脱走は重罪だぞ。このままだと世間に出ても根性なしの前科者でどこも雇ってくれない。辞めるならちゃんと手続きしてこい。

エステル 重罪！ ジョニー、早く戻れ。

ジョニー やだ！ あんなところに戻るもんか！ もうイジメられるのはイヤだ！

デビッド 陸軍の知り合いに連絡してやる。出来るだけ罪を軽くしてもらえようにな。それとも追跡兵に捕まりたいか。

ジョニー ヤダ！ それだけはご勘弁を。

ジョニー、デビッドの脚にすがりつく。

デビッド ええい、離せ。離せというに。

デビッド、ジョニーを蹴りはがすが、ジョニー再びすがりつく。

ルカ ところで些細なことだが、エステル、彼はどこから入ってきた？

エステル 教会からです。

ルカ 壁は？

エステル ……

ルカ 自分から軍に戻るよう我々で説得してみよう。君は自分の責務を果たしてきなさい。後でパーティを開くから君も一杯やりに来るといい。それまで彼を預けてもらえないか。

エステル お願いします。あんな奴ですけど幼馴染みなんで。

エステル、下手へ去る。

ジョニー お願いします。どうか食べ物。

デビッド 今サンザン食っただろうが。

ジョニー 脱走してからロクに食べてないんです。

デビッド 自業自得だ！

ルカ デビッド、大事に扱え。ひょっとしたら大役をやらしてもらわなきゃ、

デビッド 大役？

ルカ そつ。あの……

デビッド ええー まさかこのつを。無理でしょ。いい男とどうしたは無理がありません。
ルカ 誰も見つからなかった場合の保険だよ。ジョニー君。食べ物をあげてもいいが、
その代わり少しばかり頼まれてくれないか。場合によっては代役を頼みたいん
だよ。

ジョニー 食べ物をもらえるなら。
ルカ マドレーヌをいっぱい用意するよ。

ジョニー お肉がいいです。

ルカ それは用件が済んだ後でだ。

デビッド (ジョニーの肩に手を置き) 都合よく夕飯が食べると思うなよ脱走兵。軍に
突き出されたくなければ。

ジョニー (敬礼して) 喜んでお手伝いさせていただきますー 何をすれば？

ルカ 簡単なごとき。もしもの時ちよいとある役割を演じてくれればいいんだ。ちよ
っとしたサブライズを手伝ってもらいたくてね。うまくいけば、それ相応のお
礼も考えなくもない。

ジョニー ありがとうございます。何を？

ルカ 不動産の、相続人に化けてもらう。

ジョニー 不動産！

扉の閉閉音。

ルカ (誰か入ってきた様子をうかがいながら) とりあえず私の部屋で説明をしよう。

デビッド お嬢さん達だったら時間を稼いでくれ。

デビッド 了解。

ルカ さて、私の服でサイズが合うかな。(ジョニーを連れて行く)

ドニ、入って来る。

デビッド ドニでしたか。お帰りなさい。

ドニ エステルはどうしてる？

デビッド え、ああ、相愛わらずの果てなき作業に従事していますよ。いい加減神父と二

人で壁を壊して回るなんて、勤弁してやればどうですか。流石に可哀想ですよ。

ドニ だめ。おべっかとか手の平返しとかより、根本的な部分をキチンとしなければ
いけないと叩き込むのにはいい機会だもの。それに(カメラを示し)あの表情
はない！

デビッド 悪趣味だなあ。そんなことより！ 大変なんです。この楽園の危機です。

ドニ 危機？ 閉鎖にでもなるの。
デビッド アンが死んで、相続した姪っ子さんが芸術家嫌いなんです。このままだと私達、
ここを追い出されてしまうんですよ！
ドニ なんですって！

ルカ、出てくる。

ルカ ドニだったか。いい写真は撮れたかい。個展も近いんだし。
ドニ ルカ、セシルに聞いた。本当なの、ここを追い出されるかもしれないって？

ルカ 本当だ。
ドニ 黙ってるつもりじゃないでしよっね。

ルカ まさか。法を欺いてでもここを護ってみせる。ウソの相続人を仕立てあげて、
姪のソフィにここを諦めさせる。諦めてさえくれれば、その補填はいかように
するつもりだ。ちよっどいい。ドニ、誰か「アンの息子」役に合っ子に心当を
りはないかい。

ドニ アンの息子？

デビッド この相続人に仕立てて、女盗賊を追い払うんですよ。

ドニ 成程って、大丈夫なの？

ルカ 君に迷惑はかけない。

ドニ あなたが言うのならそうなんでしょうね。男の子がいいの？

ルカ 女の子でもかまわないが、いざという時は色仕掛けまで考えてもらいたい。セ
シルにも捜してもらってるんだが、君も頼む。

ドニ 分かった。心当たりを当たってみるわ。

ルカ ああ、それと。そろそろエステルを勸弁してやったらどうか。心が折れる一
歩手前だぞ。ポロポロ泣いていた。

ドニ 折れた方がいいの。その時は神父さんにケアさせます。では。
ルカ 正気か。君の写真の為だけじゃないのか？

ドニ、上手へ去る。扉の關閉音。

ルカ 女は怖いなあ。

エステルの声 あーっ！ 折角積んだレンガが！

デビッド ドニが又蹴ったな。

ルカ 行きがけの駄賃だな。

デビッド エステル、安らかに眠れ。で、あの脱走兵はどうしました。

ルカ 身なりはなんとかなりそうだがな。安心したのかワインを飲ませたら寝ちまつたよ。

デビッド あいつダメダメ君だな。やっぱり早く軍隊に連れ戻した方がいいですよ。あいつの事を思っただ度は陸軍の知り合いに口を聞いてやるって言いましたけど、マシューって奴に渡してしまいましょ。

ルカ アンの息子役があるかもしれないだろう。

デビッド ああー そうでしたあー

ルカ だからもう少し休ませておこう。後で使いものにならなかつたら困るし、今見つかっては面倒。

デビッド でも、セシルかドニがピタリな奴連れてきたらどうするんですか。

ルカ ジョニーには言い合めておいた。その時はギャルソンをやってもらおう。デビッド 出来ませうかねえ、あいつに。

スーツ姿のジョニー、出てくる。ビニールテープで作った付け髭をつけている。

ジョニー ウツラウツラしていたら、エステルの叫び声が聞こえたような……

下手からエステル、入ってくる。

エステル ジョニーの様子はどうですかーってジョニーー お前何してるの？

ジョニー エステル君、ご機嫌よう。ハッハッハッ。

エステル 熱でも出た？ 何なんだよその格好。付け髭？

ジョニー なかなか似合うだろう。ハッハッハッ。

エステル さっき叩きすぎたかな。お前のママになんて謝ろう。

ジョニー 何を言ってるんだいエステル君。僕のママは神の御許にいるじゃないか。

エステル マジだ。うわあ、どうしよう。こいつに何をしたんですー

ルカ エステル、これはだな、ちょっとサブライズの手伝いをだね、

エステル サブライズ？ それどころじゃないんですよ。ジョニー、お前を、

下手からカール、入ってくる。

ルカ・デビッド あ。

二人、ジョニーを後ろへ隠す。

カール エステル、さぼってる暇はありませんよ。神の怒りが下りますよ。
エステル え。まさか？

カール 安心なさい。また二メートル分くらい壊しておきました。

エステル 神父様あ、どうして崩すんですかあ！

カール 天の行いに逆らってはなりません。修行に戻りなさい。

エステル 人災ですよ、これ明らかなる人災ですよ。

カール 東洋には積み上げた小石を絶えず鬼が崩すという地獄のお話があるとか。エステル、品格を磨くのに修行は必要ですよ。

カール、エステルの襟首をつまみ上げる。

エステル 品格より遺跡を、論文を、発表を！ もうレンガを見るのはイヤだああ！

ジョニー エステル！

エステル ジョニー！

ルカ・デビッド ああ！

カール 何？ 今ジョニーと言いましたか？

ルカ いいえ。(エステルに理解させるように) 軍隊から追手が来ているのに、ジョニーがここにいるわけがないじゃありませんか。

エステル えー(合点する)

カール 怪しいなあ。

ルカ 早くエステルに修業を！

エステル 神父様、修業に参りましょう！

カール 私はルカに話が、ちょっと！

エステルが逆にカールを引っ張って下手へ去る。

扉の閉閉音。

ジョニー エステルッ！

ルカ 大きな声を出すんじゃない。

ジョニー まさか、追手が来たんですか？

デビッド そうだ、

ルカ ああ！

デビッド ……

ルカ まだだよ。だから君は君の役目を果たしてくれ。腹が減ってるんだろ。

ジョニー (安心して) でもエステルが、

デビッド レンガ積みは自業自得だ。それより役目を果たせ!

ジョニー それは任せてください。

シビルが入ってくる。

シビル どうしました、皆さん。

ルカ シビル。帰ったんじゃないか。

シビル セシルに会いました。話は聞きました。彼がアンの息子?

ルカ ジョニー君だ。適役が見つからなかった場合の保険だがね。

シビル ルカ。こんな事は言うまでもないと思いますが、

ルカ (遮って) 私としては、彼女にこの楽園の精神を、アンの想いを理解してもらいたい。それが出来るのであれば、君が今思った通りでいいだろう。しかしダメだった場合は徹底的にやる。

シビル 大人気ない……

ルカ 分かっている。責任は私一人が負う。それで承服してくれないか。

シビル 分かりました。私も微力ながらお手伝いいたします。

ルカ ありがとうございます。この企みが吉と出るか凶と出るかみてくれないか。

シビル、ルカの顔を覗き込む。

シビル 軍人が幸運を運んで来るでしょう。

三人 軍人。

デビッド (咳払いして) ああ、シビル、私の恋愛運もみてもらえませんか。

シビル (顔をそむけ、深い溜息をつく)

デビッド ちょっと! もっとよく見てくださいよ!

シビル 人間生まれるときも神の前に一人。召されるときも一人です。

デビッド それって一生一人って事? そんな…… (床に突っ伏す)

シビル すみません。私、とても耐えられません。

シビル、上手へ去る。扉の閉鎖音。

ルカ デビッド。誰しも最後は一人だ。

デビッド 慰めになってません！

ジョニー 今の人は？

ルカ 占いの師のシビル。よく当たるんだ。まあ本当は彫刻家なんだが、
ジョニー 僕もみてもらえばよかったなあ。エステルのこと。

デビッド エステル？

ジョニー (慌てて) いつも迷惑かけてばかりなんで！ 何かしてあげられないかなど、

デビッド 分かったぞ。貴様、女が理由で脱走したのか。ほう、そうか。

ジョニー ごめんなさいー あ、いえ、違います。

デビッド いいや、許す。女が理由なら仕方がない。私は理解があるんだ。

ジョニー 違います！ 教官の横暴さに耐えられなくて。

デビッド 横暴って、軍はそういうところだ。何根性のないことを。

ジョニー 本当に横暴なんですよ、ひどいんですよ！

ルカ まあまあ。デビッド。最近の子はそう遅しくはないんだ。

デビッド 私だって最近の子ですよ。何ですか、その目は。

ルカ 時代は移り行くんだ。三年一昔。いつまでも自分が若いと思っていてはいかん。
鏡を見てみる。ほう、シミが、皺が。

デビッド やめてー

ルカ 言ってる場合じゃない。そろそろ本当に息子役を決めないと、間に合わないな。

カール、下手より入ってくる。

ルカ・デビッド あ。

ルカ 神父、あっち！

カール え。

カールがあらぬ方を向いた際にデビッドがジョニーを投げ隠す。

カール 何でしょう？

ルカ あ、いえ。それよりどうしました？

カール レンガが積まれてなくて、壊すところがない。

デビッド 壊しすぎですよ。

カール ああ、この寂寥感。主よ、私の心を救いたまえ。

デビッド 正しく正しく。主よ、私の心も救いたまえ。

カール デビッドさん、お悩みでしたら、話を聞きますよ。

デビッド お断わりします。

遠慮なさる必要はありません。神は苦悩する者を見捨てません。あなたが苦しむ時、共に歩いているのです。デビッドさん、あなたがすべきことは悩むことではありません。どうしたら欲しいものを手に入れられるか分析し、考え、行動するのです。今まごと違つていことをなさい。新たな自分に生まれ変わるのです。神のご加護があらんことを。

デビッド 初めて神父らしいところを見た……

カール というふうなことを言っていればまず間違いありません。

ルカ 成程。

デビッド 感動した私がバカだった。

ルカ だったら部屋で一杯やっていたらどうだい。(小声で)例の者がうるつかないように。

デビッド 分かりました。

ルカ 飲み過ぎるなよ。

デビッド、部屋へ入っていく。

ルカ ところでさっき私に話があると言っていたか。そういえば、マシューとかいう軍人さんは？

カール 礼拝堂を占拠して溜息をつき続けていましたね。どうにも耐えられなくて代わりを頼んで逃げてきたんです。それよりもアンの姪御さん達が現れないのですが、本当の話なのか確認しに来たんですよ。

ルカ はて。どこかでお茶でもしているのかな。そうだ。不動産屋にも行くと言っていたな。本当の話だよ。君にウソをつく理由がない。私を信じてくれたまえ。信じますとも。早く会いたいですねえ、姪御さん達。

ルカ ちょっとかいかけるなよ。最近評判悪いぞ。

ルカ おかしいなあ。奥様方の人気は上々なのですが。

ルカ 人気の理由に問題があるんだろ。

ルカ 迷える羊達のちっかみは分かりませぬえ。それでは。(行きかける)

ルカ そっちは教会じゃないぞ。

カール 今礼拝堂には近づきたくないので、エステルと神の思し召しについて意見を交わそうと思つたのですがね、様子がおかしくて。よろしければワインを一杯いただけますか。エステルに飲ませてあげたいのですが。

ルカ どうぞ。よければボトルごと。(テーブルに置いていたワインを渡す)

カール ありがとう。ああ、グラスはけっこう。もしアンの姪御さんが現れたら私はそっちにいと伝えてください。

カール、下手へ去る。

ルカ グラスいらないうって。どうやって飲ませる気だ。

扉の開閉音。

ルカ 来たな。

シビル、上手より入ってくる。

ルカ シビル、どうした？

シビル アンと姪御さん達とお会いしまして、お連れしました。神父様が見つからないとお困りでしたので。

ルカ すれ違いばかりのようだな。今そっちにいる。後で会えよな。

デビッド、出てくる。

シビル お嬢さん達をお通しする前に……やっぱり悪巧みはやめた方がいいのでは。

デビッド この樂園を出て行けと言っただけですか。

シビル もっと平和な手段があるのではないかと。

ルカ 今言い争っている時間はない。セシルは戻らないし、お嬢さん達に待ってもらってくれ。神父は奥にいるから声をかけてくる。

ルカ、下手へ去る。

デビッド シビル、あなたの占いでほんと出てますか。いいえ、占うまでもありません。私達は戦うべきです。理不尽な運命の前に屈してなるものですか。

シビル デビッド。忠告しておきます。物事には誠実にあたるべきです。お仕事の時はあなただってそうでしょう。

デビッド 外の世界のことなどどうでもいい。今大事なのが我々の心の拠り所であるここを守ることでしょ。違いますか。そのためなら私は手段を選ばせんよ。アンの姪御さんが相手だから、ルカに従って穏便に。

ルカ、戻ってくる。

ルカ おかしいな。カールの奴、エステルと一緒に思ったら二人ともいないんだ。

お嬢さん達を待たせるわけにもいかんし、

デビッド ルカ、ジョニーが酔いつぶれて、爆睡しています。

何だって。セシルは、まだだし。困ったな。

ルカ ルカ、やはりここは誠実に、話し合いを、

無理だ。シビル、君は知らないがソフィさんもそのお友達も、芸術家を偏見の目で見か見ていない。

シビル でもそれは理由が、

ルカ どのような理由があろうともだ。あのように拒否されては黙っていられん。ま

してお友達のはうは駆け出しの弁護士のようなだがロクな態度ではない。一度叩いておくべきだ。

シビル 私は忠告しましたよ。ではこれで。

ルカ 協力してくれるんじゃないのか。

シビル 私にできる形で。さっき下二を見かけました。彼女を呼んで、戻って来ます。アンの姪御さん達をお通ししますよ。

シビル、上手へ去る。

デビッド どうします。

ルカ 運を天に任せよう。ワインが一本空くまでに、セシルが誰か連れてくるか、ジ

ョニーが起きてくるか。それで決めよう。

デビッド 私は諦める気はありませんからな。

ルカ 分かっている。ワインが空くのが先だったなら、何もかも正直に話して、私が頼み込む。デビッド、巻き込まれないよう君は黙っていてくれ。

デビッド 何を今更。水くさいですよ。

ルカ すまんな。

扉の閉閉音。

ルカ お出ました。

ソフィーとミリアム、上手より入ってくる。

ソフィ お招きに預かりまして。

ミリアム 以下同文。

ルカ 神父とは会えなかったようですね。

ソフィ はい。どうにも間が悪くて。どうしたものかと思ったら、

ミリアム あのシビルって人が、先に皆さんとお話した方がいって言うから。

ルカ 成程。ああ、いけない。ワインはカールにやっただった。

ミリアム ワインが無い？

ルカ 大丈夫。ちゃんととっておきのがありますよ。な、デビッド。少々お待ちを。

ルカとデビッド、デビッドの部屋へ入っていく。

ミリアム ソフィ。どうするのか決めた？ 正念場よ。

ソフィ それは……

ルカとデビッド、ワインを持って出てくる。

デビッド 起きませんね。

ルカ うん。起きなかったらそれはその時だ。さ、お注ぎしましょう。アンが好きだったワインだよ。

デビッド セシルがマドレーヌを買いに行ったんですが、まだ戻らないのでそちらはお待ちください。

ソフィ 私、お酒は……

ミリアム いいじゃない。一杯くらいつきあいなさいよ。

デビッド、グラスにワインを注いでいく。

ルカ それでは。我がアンの魂だ。

全員、黙祷をささげ、飲む。

扉の閉閉音。

ルカ (上手をうかがい) こんどは誰だ？

ソフィ おいしいー

ミリアム いいワインだわ、これ。

セシル、マドレーヌを詰めた袋を抱えて上手より入ってくる。

セシル 遅くなりました。ソフィさん、いいところに。大変なことが。アンの息子さんが来ましたよ！

ルカ、デビッド、ワインでむせて苦しむ。

ソフィ・ミリアム アンの息子？

ソフィ 伯母さんに子供はいないはずですが。

ミリアム そうよ。だからソフィが相続することになったんだから。

セシル そうは言いますがねえ……あのアンだから。

ミリアム 成程。あの伯母さんならありうる。(と言いかげ手首を振る)

ソフィ 私に親戚がいる……従兄弟がいる……どうしよう……余りに急な話だから……

ミリアム しっかりして。まだ決まったわけじゃないわ。

ソフィ どんな顔して会えばいいの？ ちょっとお化粧を。お部屋借ります。

ルカ ああ、デビッドの部屋じゃなく、私の部屋を。

ソフィ、ルカの部屋に入っていく。

ミリアム、セシルに詰め寄る。

ミリアム さて、どういう事でしょうか。なぜあなたがソフィの新たな身内を？

セシル 教会で懺悔をささげていたのを聞いてしまいました。泣きながら「母さんがいたなんて、それも死んだなんて、聞いたのは三日前なんだ」って……ショックで三日前から誰とも話していないそうです。

ミリアム 三日前。

セシル とにかくお呼びしますよ。それではご紹介いたします。アンの息子さんです。

マシュー、下手より登場。

マシュー はじめまして。よろしくマドモアゼル。(手を取る)

ミリアム どうも……

ルカ セシル、ちょっといいか？

ルカとデビッド、セシルを上手端へ連れて行く。

ルカ どうしてあいつなんだい？

セシル 礼拝堂にいたんですよ。パリの人だそうですから、何とでもごまかせるかと。

デビッド ちょっとまづいですがね、これは。

セシル 何が。

ルカ モメる要素があるんだ。デビッド、ジョニーを見てきてくれ。出てこられたら困る。縛り上げてでも。

ジョニー、大きな欠伸をしながら出てくる。

ジョニー お腹空いちゃったー

ルカ・デビッド 遅かったー

マシュー ジョニーー

ジョニー 教官ー

マシュー、逃げようとするジョニーの襟首を捕まえる。

マシュー ここにいたのかー

セシル え、どういう事ですか？ 彼はいいたい？

ルカ 脱走兵だ。詳しくは後で。

ジョニー ごめんなさいー 見逃してくださいー 今は大事な役目が、

マシュー 大事な役目？

ジョニー 僕がここを相続するんです。アンという人の息子として。

ルカ・デビッド あああああー

マシュー 何ですか？

ミリアム 何ですってー

ルカ・デビッド 何でも。

ルカ ジョニー、待て。

マシュー ジョニー、気をつけいー

ジョニー (直立不動の姿勢になる)

マシュー 休めー

ジョニー (足を軽く開いて両手を腰の後ろにまわす)

マシュー どういうことが説明してもらおうか。

ジョニー こちらの方から、

ルカ ああ、待った私が説明しよう。

ミリアム 説明していただきましょか。その人がここの相続人？

ジョニー はい。亡くなったアンの息子として、

マシュー なんだった？（セシルを見て小声で）どういふことです……

セシル ……（何かに気づき耳打ちをする）

マシュー 成程……お前もあのアンの息子だったのか。弟よー

ジョニー・ミリアム ええええええー

ルカ 彼、芝居っ気あるな。

デビッド 教官やっけると芝居っ気がつくのかな。

セシル 弟がいるとは聞いていなかったが、やはりあのアんだ。兄弟姉妹がいても不思議はない。

議はない。

ジョニー 教官のお母様ってパリにいらっしやるんじゃ、

マシュー （遮って）アンは間違ひなく母だ。例え何があるうとも、俺にとつて母である

ことに間違ひはない。ああ、こんなことがあるうとは。後でゆっくり説明して

やろう。そうだな、お前と基地に戻ってから。

ジョニー 嫌ですー 僕は戻りませんよ。

マシュー ジョニー、エレガントにいこう。一杯飲んで肩組んで仲良く歌いながら帰還と

しゅれこもうじやないか。

ジョニー 嫌です。

マシュー このままだと前科がつくんぞ。バカかお前は！

ジョニー またバカって言ったー 親にも言われたことなのにバカバカバカバカ。もう

我慢できない。絶対戻るもんかー

デビッド ……なあ、軍隊逃げ出したのっでもしかして、

ジョニー この人達、俺の事バカって言うんですよ。信じられない！

ルカ 大変だな、君も。デビッド、ワインを。

デビッド、部屋に入りワインを一本とって戻ってくる。

セシル お察します。

ルカ 教官殿。もういいから、こいつ酔い潰して連れて帰りましたまえ。酔っぱらって前

後不覚の失踪だったらまだどうにかなるだろう。

デビッド その方が何も喋らなくていいと思うぞ。

マシュー でも……

デビッド 躊躇してる場合か。セシル。

デビッド、ジョニーを羽交い締めにする。

セシル、ワイン瓶をジョニーの口に突っ込む。

マシュー (ルカに) こいつ、ここにいたんですか。

ルカ 隠してはすまなかった。訳は後で説明する。

マシュー 時間がありません。見つかったからよしとしますよ。

ジョニー、自分でワインの瓶を持ち、崩れ落ちる。

マシュー 無事に連れ帰れそうですし。(溜息) こいつが脱走したせいで彼女とのデートをすっばかして、もう三日。本部に見つかからないよう携帯置いてきたから連絡とれないし……久しぶりのデートだったのに……もうダメだろうな。

ミリアム どういうことなの？ 脱走？

マシュー ええ。こいつ、俺の隊から脱走して捜していたんですよ。

ミリアム ふん。前科がつかないよう、こっそり捜してたんだ。部下悪いなのね。

マシュー ありがとう。

ソフィが出てマシューを見つげ驚く。

ソフィ

マシュー、ミリアムの手を取る。

ソフィ

マシュー でも、奇跡は起ります。新しい出会いが……

ミリアム あら。あなたに彼女がいらないのなら最高の出会いですのね。

マシュー 僕は捨てられたんだ。フリーだよ。君の名前は、ええと、

ミリアム ミリアムよ。

マシュー さあ、こっちを向いて慰めてくれないかい？

ミリアム あなたのお名前は？

マシュー 僕の名前は、

ソフィ マシュー。

マシュー そう、マシュー。そして君の名前は、ミリアム。(振り向いて) ソフィー

ソフィ ……

マシュー どどど、どうしてここだ！

ソフィ そうなの。脱走した人を捜してて連絡がとれなくなったのね。

マシュー そうなんだよ。携帯もってたら位置がバレるからね。ここで会えるなんて！

ソフィ ふーん。

マシュー こいつー こいつが全ての元凶なんだ！ ジョニー、お前なんか言えよ！

ジョニー、爆睡。

マシュー ジョニーー 立つんだジョニーー ジョニーー！ 立ってえええー

ルカ、デビッド、セシル、こっそり逃げようとしている。

マシュー 皆さん助けて！

ルカ・デビッド・セシル あ。

ソフィ (笑顔で) 皆さん、どうしました？

ルカ ちょっと用事を思い出しまして。

デビッド・セシル 右に同じ。

ミリアム あらつれないわぁ。せっかくアンの息子さんが来たのに。飲みましようよ。

ソフィ ずいぶん仲が良さそうね、ミリアム。

マシュー あ、ミリアムって言うんだ君。ミリアム？

ミリアム あら、私のごことをご存知？

マシュー ソフィがいつも話してた。子供の頃からの、一番の親友だって……。

ミリアム そまなの。嬉しいわぁ。あ、ソフィ。こちらアンの息子さんのマシュー・ニコーさん。今口説かれてたの。

マシュー (首を振る) まだ口説いてない！

ソフィ そう、あなたがアンの息子。なら私とは従兄弟になるわね。

マシュー 何で。

ソフィ アンは私のお父の姉なの。私、従兄妹とつきあってたのね。シロックだわ。

マシュー え、何それ。待って。違うんだ。これには訳が。神に誓って俺はアンの息子な

んかじゃない。(セシルを指して) この人に頼まれて、フリをしていたんだよ。

セシル いやそれは。

ソフィ ふーん。どういふことでしょうか。私を騙そうとなさったんですか。

ミリアム ソフィ笑顔が怖い。

ルカ まさかこんな事になるとはな。

ミリアム アンの子を騙るなんて、あんたからここをもぎ取ろうとしたんじゃないの。セシル そうです。僕が、あなたからこの楽園を奪うつもりで、

ルカ おい待て。これは私が一人で行った事だ。

デビッド いいえこれは私が、

ミリアム あんたにゃ無理。

デビッド 何で！

ルカ ソフィさん、私の計画なんだ。あなた方が芸術家を嫌って我々を追い出そうというので、この楽園を守る為に、

ミリアム これは詐欺、りっぱな犯罪よ。

ソフィ 自分の心に疚しさを感じないんですか。芸術家の魂は許してくれるんですか。

ルカ・デビッド・セシル ……

マシュー ね、ソフィ。この人達も悪気があったわけじゃ。

ソフィ どちら様？

マシュー え。

ソフィ (ミリアムに) これ誰？

ミリアム 私を口説こうとした男。

マシュー ミリアムさん！

ソフィ まゝ素敵。きっとフリーの公務員さんなのね。

マシュー ソフィさん！

ルカ みんな、すまない。一時の感情でバカなことをしてしまった。この楽園とアンの

魂に感謝を捧げる。そしてソフィさんの前途に祝福を。老兵は去るのみだ。

ただ、ソフィさん。この責任は私が取るかわり、みんなはここに置いてもらえない

だろうか。世間の荒波から自分の心を守る為、みんなにはここが必要なんだ。私に出来ることならなんでもしよう。頼む。

だ。私に出来ることならなんでもしよう。頼む。

デビッド 何を今更。あなた一人に負わせませんよ。

扉の開閉音。シビル、入って来る。

マシュー あの……何がなんだかよく分からないけど、俺も同罪と思うんだ……ソフィ、

俺からお願ひ、

ソフィ あなたの罪はもっと重たいところにあるわ。

マシュー ですよねえ。

シビル うまくいかなかったようですね。

ルカ シビル、すまない。君にも飛び火しないことを願うばかりだ。

デビッド 我々は自分の魂までも汚してしまいましたよ。

セシル そうですね。恥を知るべきでしょう。

シビル 本来のあなた達ならこんな軽率な真似はしなかったでしょうに。(ソフィに)

如何ですか。みんなおバカさんでしょう？ アンンの愛したおバカさんです。

ソフィ 「この楽園はそんな人達の心を救う場所。ここに集まったのは家族同然の人達。私は無邪気な秘密基地をあなたに贈りたい」……誰の言葉だと思います？

一同 ？

ミリアム アンの遺言ですって。ふざけてるわ。ここを管理している不動産屋に分割した遺言書を託していただなんて。最初から全部書いておけばいいのに。この人に会ってようやくいろいろ分かったわ。面倒くさい。たらありゃしない。

シビル アンは、ソフィさんに直接、このことを知って欲しかったのでしょーね。

ルカ 不動産屋？ それじゃあ……。

シビル ええ、私に。どうですかソフィさん、地位ある人達も世間から離ればご覧の通り。男の子はいくつになっても男の子なんですよ。

デビッド ねえシビル、なんの話？

シビル みんなの企みはご存知だったってことですよ。

男達 ええー

ルカ どうして。

シビル 私が喋りましたもの。

男達 えええええー

シビル ソフィさん。みんなのことを許していただけますか？ マシューさんを除いて

それにはまず、皆さんの身元を明らかにしていただけませんか。どこの誰とも分からない方のお話を信じるわけにはいきません。

ルカ 当然です。皆さん、この楽園を許してもらおう為ならば、誓いも破ってもかまいませんね。

デビッド・セシル (頷く)

シビル では私から。と言っても(ソフィとミリアムに)もうご存じですわね。彫刻家シビルこと、レティシア・カンパナ。カンパナ不動産業を営んでおります。ここを初めアンの所持物件のほとんどをウチで管理させていただいております。

ミリアム オフィスにおかれた彫刻、素敵でした。

ソフィ あれもそうですか？ (上手奥の彫刻を指す)

シビル ええ、自信作ですわ。

セシル 作曲家のセシルことアーノルド・ルボン。ニースのルボン税理士事務所の所長をしております。

ミリアム ルボン税理士事務所っていったら南部で五本の指に入るわよ。
デビッド 詩人のデビッドことサミー・リアウディン。警備会社の代表取締役です。

ジョニー、飛び起きる。

ジョニー 警備会社！

デビッド ついでに言えば、元陸軍少尉だ。

マシューとジョニー、敬礼する。

ジョニー 少尉殿！ いえ、社長！ このジョニーをよろしくお願いいたします！

ジョニー、デビッドにすがりつく。

デビッド ええい、離せ。離せと言うに。

ルカ 画家のルカことジェス・ディアバテ。ディアバテ弁護士の事務所です。

ミリアム ゲー！ ディアバテ弁護士の事務所！

ソフィー 有名なの？

ミリアム 有名よ。今一番有名な弁護士事務所かもしれない。私、先週、履歴書送ったのよ……どうしよう。

ルカ 屈いてますよミリアムさん。所長の顔は知っていた方がいいですね。法的に必要がなくても。

ミリアム オホホホホホ。だって顔出ししてないじゃないですか！

ルカ 顔売ってほしいのは私ではなく所属の子達ですからね。みんなが一人立ちしてもいいように、私の顔より事務所の名が大きくなればいいんです。

ミリアム 流石は所長！

シビル 如何でしょう。この面々に、この楽園を使わせていただけますが。

ミリアム ディアバテ先生には是非！

デビッド・セシル そんな。

ソフィー 言い方が悪いかもしれませんが、皆さんは芸術家を気取って真に助けを必要としている芸術家のことは気にもしていないように思われます。如何ですか。そう言われると……

セシル

ルカ 耳が痛いな。

ソフィー 本当に売れない芸術家の助けになってくれる場所があったら、

ミリアム ソフィ……？

ルカ そうしよ。誓うよ。ここを本当にアンが望んだ場所にするよ。

デビッド、セシル、シビル、頷く。

ルカ 勿論その中に私達も交せてもらえれば幸いだかね。如何かな？

ソフィ そういうことでしたら。

ミリアム ソフィ……あんた変わったわね。

ソフィ 父が生きている間に、こんな場所があったら、父みたいな人ももっと救われたのかもしれない……アン伯母さんも、父の、弟のことがあったから、こういう場所を創ったのかもしれない……

ミリアム へえ。あのポジティブあんたが、ここまでなるとはねえ。

ソフィ 今日一日で一年分喋ったような気がするわ。

ミリアム それはいいわ。私なら一日分にもならない。

一同 (笑)

ソフィ ご賛同いただき感謝いたします。皆さんと私で、審査してここにふさわしい芸術家を支援しましょう。審査基準は一つ。芸術を愛す芸術家である事。

ジョニー 俺も助けを求めてますー 教官、脱走の罪なんとかしてくだささい。

マシュー パカが。ソフィ、分かっただろ。こういう奴らを指導しているんだ。連絡とれなくなることもあるさ。

ソフィ さぁどうかしら。それだけで本当に三日も連絡が撮れないってことがあるのかしら。

マシュー 本当だよ。こいつに聞けばいい。おい。お前が逃亡したのは三日前から、つまり俺がお前を追跡する旅に出たのは三日前だよな。

ジョニー 何のことです？

ミリアム あんたの教官殿はこのオーナーの彼なんだけど、三日連絡を取らなかつたので、別れなきやならなくなつてんのよ。つまりあんたの返事一つで天国か地獄かが決まるってわけ。

ジョニー それは大変だ。

マシュー 分かったな。じゃ答える。俺はこの三日間お前を追ってたんだよな。

ジョニー 僕が逃げたのはタベです。

マシュー な。

一同 ！

ジョニー ニース行きトラックにらせてもらって一晩でここまで来ました。

ソフィ マシューッ！

ミリアム 万事窮す。

マシュー 違う！ 貴様、何てこと言うんだ！

ジョニー (小声で) 脱走の罪なんかしててください。

マシュー (同じく) 貴様、俺を脅迫する気かッ。

ジョニー 僕が逃げたのはタペー！

マシュー ああ！ (小声で) 分かった。外出許可の書類が風に飛ばされたことにしてやる！

ジョニー ああ、勘違いしてました！ 三日前です！ そのあいだ教官は大変で、ご迷惑

をおかけしました！

マシュー てことなんだよソフィ。これで誤解は解けたよね。

ソフィ 連絡がとれなかった件は許してあげる。

マシュー 本当！

ソフィ (ミリアムを観る)

マシュー ソフィ様！

デビッド 軍人らしくないな！ 男らしくしろ！

ルカ シビル。この問題は君の方が頼りになる。何かアドバイスしてやってくれない

か。彼を巻き込んだ身としては心苦しいし。

シビル

(マシューの顔を覗き込み) ラッキーアイテムは上等なワインと豪華なベッド。

マシュー

上等なワインと豪華なベッド？

デビッド

よし。私の部屋を使え。

マシュー

ええ？

セシル

ダメですよ。このベッドは質素なんですから。

ルカ

上等のワインなら私の部屋にあるものを進呈しよう。豪華なベッドか……

カールとエステル、腕を組んで下手より出てくる。

カール

豪華なベッドなら教会の前をまっすぐ行った先に、良いホテルがありますよ。

一同

？

ルカ

だから何だよ？

エステル

カール、早く行きましょうよ。

一同

ええええええええええ！

扉の閉閉音。

ジョニー エステル？ 嘘だろ……

エステル 行きましょカール。(カールを見る)

カール 私は聖職者ですよ。それでは皆さん、神のご加護がありますように。

カールとエステル、上手へ去ろうとする。

全員 おいクソ坊主！

ドニ、上手から入って来る。

ドニ カール。どこへ行く気？

カール エミリー。

エステル 先生！

一同 先生？

ドニ どうも皆様。大学で歴史学料の助教授をしておりますエミリー・ヌネスです。

そこにいるカールとは親しくおつき合ひさせていた দিয়ে おります。ふーん。

その様子だと、また、弱ってるところにつけこんでパクッといっちゃったみた

いね。

カール いやぁ、これはその、

ドニ いいのよ言い訳なんかしなくても。まさか神に仕える身で二股なんてしないするわけがないものね。しかも、私の教え子と。

エステル 先生、これは、その、

ドニ エステル、そんなことをする暇があったら時代と建造物にあった正しいレンガの選び方を調べるべきじゃないかしら。丈夫だったら何でもいいというものではないでしょ。蹴り崩すのは心が痛かったわぁ。

エステル まさか先生が？

ドニ 私もこの一員ですからね。あなたが何をしたか、カールから聞く前に知っていましたよ。

エステル 鬼ッ！

ドニ あら、折角優しいところをみせてあげようと思っただのに。明日からの美術部との共同実習授業、ローマ時代の歴史的壁の修復にしようと思っただのに。

エステル 本当ですか。

ドニ 六日間直すわよ。

エステル 鬼なんて言っただいめんなさいッ！

ドニ 古い建造物の修復とその資材の性質についてレポート百枚、来週までに提出するように。出来が悪かったらやり直し。

エステル ひゃくまいーやっぱり鬼だ……

ドニ よろしい。じゃあまずは資材の確認からね。

エステル はい……

エステル、直立してから下手へ走って退場。

ドニ さて、カール。

カール はい、なんでしょう！

ドニ じっくり話し合いましょ。レンガ積みを監督しながら。

カール ああ、私はレンガが大好きになったんですよ。君のおかげだね。

ドニ エステルのおかげでしょ？（カールと腕を組み）さ、行きましょ。

カール 神よーご加護を！

ドニとカール、下手へ退場。

ミアム 今の何？

ルカ 天罰がくだった、ということだろう。

デビッド カール……安らかに眠りたまえ。

ソフィとジョニー以外、下手へ向かって祈る。

ミアム 浮気の天罰って怖いね。

ルカ いやあれはドニが仕向けた面もあるんだ。

デビッド じゃあなんですか。浮気するようしむけて何か企んでるんですかね。

セシル あ、そういえば新しいカメラが欲しいとか言っていましたよ。

マシュー よく分かりませんが、女って怖いですね。

ジョニー、大声をあげて泣き始める。

ジョニー 畜生ーもうどうにでもなれー

マシュー どうしたどうした。

デビッド ああ、これは任せておけ。分かる。分かるぞ、お前の気持ち。こういう時はな、

なにもかも分からなくなるまで飲むのが一番だ。行くぞ。奮ってやる。
ジョニー（泣きながら）就職させてください。今すぐです……
デビッド 軍で鍛え直したら考えてやる。

デビッドと泣きじゃくるジョニー、上手へ退場。扉の閉閉音。

ソフィ どうしたのかしら？

ルカ 失恋だな。それも芸術の糧になる。

ソフィ 失恋、あなたと同じね。

マッシュ ソフィ？

シビル 二人だけにしてさしあげましょうか。

ルカ ねえシビル。どうしてソフィは急に芸術家嫌いが直ったんだい？ アンの遺言

書には何が書いてあったんだい？

ミリアム

ソフィの芸術家嫌いはいね、お父さんが原因。芸術家気取りでね、ソフィが小さい頃に失踪した上、事故で死んだのよ。そのせいでお母さんと二人で苦勞してその苦勞のせいでお母さんも亡くなって。それは何もかも芸術という悪魔に魅入られたからだって、そう信じてたのね。でもそれは違っていた。

マッシュー 違っていたって？

ソフィ ……

シビル ルカ、ヨセフって名前、覚えてない？

ルカ ヨセフ……彼かー

マッシュー ご存知なんですか。

ルカ ああ、知ってる。知っているどころか……ヨセフ……じゃ、君はヨセフの娘だったのか。

ソフィ ……

ルカ 待てよ。てことは、ヨセフはアンの弟……アンはそのことをどうして教えてくれなかったんだ。何年も私はヨセフとここで暮らしたのだ。

ルカ ここでは俗世の名前や本当の姿は表わさない。そういう決まりでしょ。そうだった。

ソフィ ルカさんは父のことご存じなんですか？

ルカ 知っているとも。彼は私同様画家志望だった。ここは元々心を病んでいた彼の養生の場として始まったんだ。

一同 ……

ルカ 彼に聞いた話だよ。彼は画家になりたかった。だが両親が許さなかった。才

能があるのかどうか、認められるかどうか、神のみぞ知る職業だからね。あのゴッホだって生きている間はついに認められず、惨めに自殺してしまったんだ。親としちゃそんなものにさせるわけにはいかないからね。だが彼の決意は固く、結局勘当されて家を出た。ところがたちまち生活に困った。奥さんや、その、君を食わせていかなきゃならなかったからね。彼は身を粉にして働き、絵を描く時間もなくなつて、心を病んでしまったんだ。一方、ここからは私の想像だが、アンはそんな弟の身を案じてここを作ったんだろうな。ここはアンが親から生前贈与でもらったと言っていたから。そしてヨセフは、ここで思う存分絵を描いた。私はたまたまアンと知り合いここへ来た。恐らくアンは弟に友人を作ってやりたかったんだろう。同じ芸術を愛する仲間としてね。私達はイーゼルを並べて絵を描いた。やがて心も落ち着き、アンの見立てでヨセフの絵は世間にも通用するだろうとなつて、ここを出ていった。私が知っているのはそれだけだよ……

ミリアム

その帰り道事故に遭われたのね……

セシル

無念だったろうなあ。

ルカ

ソフィ。ヨセフは、心から絵を愛していた。芸術を愛していた。ここは、君のお父さんの為に作られた場所なんだよ。

ソフィ

父の絵はどんなでした？　うちには何もなくて、見たことがなくて……

ルカ

君はもう見ている。ヨセフの絵を。

ソフィ

私が？

ルカ

その絵だよ。(正面奥の額を指す)

ソフィ

……これが……お父さんの絵……

ミリアム

これが……素敵な絵ねえ……

ソフィ

(見て)……お父さん……

ソフィ、泣く。

マシユ

ソフィ……

ミリアム

でもどうして伯母さんは真実をソフィに教えなかったんだろ？

シビル

負い目を感じておられたのよ。弟さんをここで預かったを為、ソフィのお母さんが

苦勞なされて、それで亡くなったから。

セシル

そうですね。アンはお金持ちなんだから、どうしてソフィとお母さんの金銭的

援助をしなかったんだらう。

シビル

ソフィのお母さんが断ったんですって。彼女も又責任を感じていた。夫に自分

を運ばせてしまったから、勘当になり、心を病んでしまったって。

セシル みんな優しいすぎる……

シビル アンはソフィがここを相続できる年齢になったら言おうと思っていたのよ。でも直接言う前にアンはマドレーヌを喉に詰まらせて。

ミリアム マドレーヌめ。

ルカ さ、今日はこれくらいにしようか。ソフィに話を聞いてもらえるようだし、アンの冥福を祈って飲みに行こう。ああ、そうだ。ミリアムさん。私達もちゃんと家賃を納めるから安心を。

ミリアム 今までタダですもんね。皆さんお金持ちなのにどぶして。

セシル アンが怒って受け取らなかったんですよ。

シビル 弟さんへの愛が、芸術家を守らせたのよ。

ルカ まったくマンらしく。

セシル 修繕費や維持費はみんなでこっそり出し合っていましたけどね。

ルカ さ、行こう、シビル。セシル、いつもの店だ。

シビル お供します。

ルカ、右肘を軽くあげて見せる。シビル、腕を絡ませる。

ミリアム あのお、私の就職は？

ルカ 今日は野暮な話だよそうじゃないか。

ルカとシビル、上手へ退場。扉の開閉音。

ミリアム 就職が遠のいた……

セシル (咳払いして) ミリアムさん。私、ディアバテ弁護士事務所の顧問税理士をしておりまして。就職について、口を利用してあげられるかもしれませんよ。

ミリアム 本当ですかー でもそんな腹黒そうなお仕事は。

セシル 弁護士は笑顔で腹黒いくらいでちょうどいいんですよ。

ミリアム 肝に命じます。

セシル、右肘を軽くあげて見せる。

セシル それでは行きましょうか。ルカも待ってるくれるみたいですし。

ミリアム 本当ですか？

セシル 「はい」の店「はい」って言ってたでしょ。待ってるって聞いてますよ。

ミリアム お供させてください！ ああ、人生って素晴らしい。

ミリアム、腕を絡ませる。その時、セシルに見えない角度で正面に向か
かって大きくニヤリと笑う。二人、上手へ退場。扉の開閉音。

マシユー ソフィ、みんななくなったよ。ソフィ？ 僕は、いつまでか
じつしてたらいいのかな？

ソフィ (涙を拭いて) そんな情けない声出さないの。鬼軍曹が聞いて呆れるわ。

マシユー 君の前では鬼軍曹も形無しだよ。

ソフィ あら、ちょっとはお口が上手になったみたいね。

マシユー 不器用な軍人としてはこれでも一生懸命なんだよ。

ソフィ そういう割りには器用にミリアムを口説こうとしてたみたいけど。

マシユー だって俺はつきり君にフラれたと、いや、謝る謝るから、

ソフィ 気をつけ！

マシユー！ (直立不動の姿勢)

ソフィ 休め！

マシユー！ (休めの姿勢)

ソフィ 面白い。

マシユー ソフィ、

ソフィ 気をつけ！

マシユー (直立不動の姿勢)

ソフィ 休め！

マシユー (休めの姿勢)

ソフィ (笑)

マシユー …… (笑) ……君、本当に変わったな。たった三日会わなかっただけで、四日

前までの大人しい君が嘘のようだ。

ソフィ ……きっとお父さんが……ううん、芸術が私を変えたのね。

マシユー 俺は軍人だから芸術家にはなれないな。ごめんよ。

ソフィ (微笑んで首を振り) ……心配しないで。私になるわ、芸術家に。(劇場内を

見直し) この、芸術の楽園で。

ソフィとマシユー、手をとって上手へ去る。扉の開閉音。

ゆっくりと暗くなっていき、暗転。